

埼玉県白岡市立 南中学校



授業利用と、家庭学習の両立

～ 誰一人取り残さない教育を ～

南中学校では「誰一人取り残さない教育」を教育方針として取り組んでいます。白岡市第二弾の本号では授業のまとめにeライブラリのドリルを活用している様子と、夏休み中のコミュニケーション機能を使った課題の実践についてご紹介します。

確認テストで、理解度の確認と学習内容の定着



1年 数学 単元：文字を使った式

教科書の練習問題を解き終わると、**先生から確認テストが配信され、クラス全体の理解度を確認します。**紙のテストと同様、生徒は黙々と解き進めていき、確認テストが終わった生徒から自分のレベルに合ったドリルに取り組みました。

教科書とeライブラリを併せて利用することで、多くの問題に取り組むことができ、学習内容の定着に繋がります。

確認テストの結果に応じて、課題を再配信



確認テストの結果が80点未満の生徒に対して、先生からもう一度確認テストが配信されます。授業時間内で終わらなかった場合も、続きを**家庭から学習できます。**

生徒の取り組み状況を先生からは一覧で見ることができるので、学習ペースや理解度を確認しながら、個別対応する時間を作っています。

インタビュー 学習履歴を活かした今後の展望

eライブラリは校務の時間を削減することができる教材です。例えば、夏休みの課題の場合、これまで、①先生が課題の作成・印刷、②生徒が綴じ、丸付け・夏休み明けに提出、③先生の確認作業、という沢山の段階がありましたが、**夏休みの宿題をeライブラリに置き換えたことで、これまでの校務作業を大幅に減らすことができました。**

また、生徒たちの取り組み状況を見取れるところも、とても便利な機能です。**生徒が課題に取り組んだ時間や正答率を、先生から簡単に確認することができます。**「主体的に学習に取り組む態度」という評価観点の新学習指導要領に入っていますが、生徒の取り組み状況をeライブラリで確認し、それを評価に関連付けられないか、と考えています。すぐには難しいかもしれませんが、将来的には、観点別評価の材料としての可能性も感じています。



教諭
井出 浩之先生

長期休暇中も生徒にメッセージを配信

POINT! 課題の取り組み状況を確認し、メッセージでコミュニケーション

井出先生は夏休みの宿題でも、eライブラリを活用しています。1学期に学んだ内容を3つに分け、それぞれ期限を設けて課題を出題しました。**課題の取り組み状況を一覧で確認し、取り組みが無い生徒には、コミュニケーションのメッセージ機能から個別にメッセージを送って通知をしたり、生徒からの質問に答えながら運用しています。**

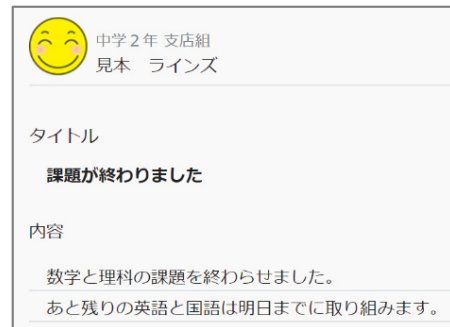
長期休暇中で生徒に直接会えなくても、eライブラリを活用して生徒の状況を把握することができました。



▲ 夏休みの課題配信（例）

課題	氏名	進捗率	正答率	時間 (分)
見本 国語		2 / 2	60%	2
見本 算数		2 / 2	60%	1
見本 理科		0 / 2	-	-
見本 社会		2 / 2	40%	4
見本 英語		2 / 2	100%	2
見本 苦手		0 / 2	-	-
見本 得意		2 / 2	80%	2
見本 挑戦		2 / 2	80%	2
見本 太郎		2 / 2	40%	2

▲ 取り組み状況の見取り画面（例）



▲ 個別のメッセージ画面（例）

生徒の様子

- 頭のチャンネルを次の授業に変えるため、休み時間に自主的にドリルに取り組んでいる。
- 解説教材を読んで、前時の授業内容の復習をしている。
- 教科書のページに対応しているため、生徒は迷うことなく、復習教材を選択している。
- ドリル教材があることで、一人一台のタブレット利用に対する意識が上がった。
- 成果が生徒の目に見えることで、ドリル利用の意欲が上がった。

インタビュー

「誰一人取り残さない教育」の一端を担う教材

本校では、「誰一人取り残さない教育の推進」を教育方針としています。eライブラリは、学校でも家庭でも取り組めるため、不登校の生徒も含めて**全員に課題を配信し、学習機会を提供できることに魅力を感じています。**

また、生徒に対して個別にメッセージを送信できる機能も重宝しています。**今まで何を試しても連絡が取れなかった不登校の生徒から、eライブラリ上では連絡が取れるようになりました。**一度関係が途絶えてしまった生徒とのつながりが復活したのは、eライブラリが有用だと感じています。

また、担当教員は生徒からのメッセージが沢山書かれた画面を嬉しそうに見せてくれます。さらに教頭先生からも「eライブラリを学習と生徒指導の両輪で使っていこう」と発信をしてくれています。今後も教員同士で情報共有をしながら、eライブラリの更なる活用に繋げていきたいと思っています。



校長
福沢 仁恵先生

※ 本紙の情報は取材当時（2021年度）のものです。